

第三十四回句会 俳句

【高点句】

- ☆祭果て男の無口戻りけり 〈静〉  
☆灼砂を海の青さへ駆け抜ける 〈眞澄〉  
☆行く夏の汀に波の寄すばかり 〈きさ〉

【各自一句】

- ・氷菓手におしゃべり尽きぬ女子高生 〈安津子〉  
・氷アリ☒駅前小店小さき旗 〈千恵〉  
・原生林守りし民や灼ける島 〈茂〉  
・速足の籠に入りたる氷菓かな 〈青蛙〉  
・応援のかひなく敗れ氷菓食ふ 〈莫院〉  
・切り刻むオクラとろりと日の暮るる 〈静〉  
・シャリシャリとかき氷待つ匙三つ 〈撫子〉  
・ざりざりと匙入れてゐる氷菓かな 〈きさ〉  
・容赦なく炎熱覆う被災の地 〈一馬〉  
・風穴のミストで浮かぶ青い芥子 〈童心〉  
・何もしないことの贅沢夏館 〈明美〉  
・子等去るを待つてゐたかになかなかな 〈眞澄〉

\*以上、36句(3句ずつ12名)より、選句は12名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句(今回は、第2位が同点で2句)

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載)